

痔核の治療

大腸肛門外科部長 岡本 欣也

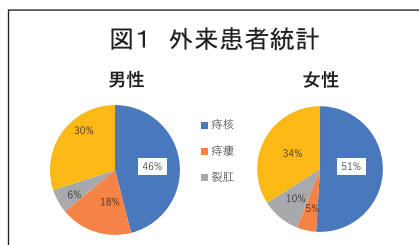


早いもので社会保険中央総合病院時代に大腸肛門科に入職してから25年目となりました。当時はこんなに長くお世話になるとは夢にも思っていませんでした。その間、初代センター長 隅越幸男先生を始め岩垂純一先生、佐原力三郎先生など多くの先輩医師から肛門疾患に対する診療の心得、手術技術を学ぶことができました。当科も佐原先生の退職に伴い、新しい時代に突入しました。この歴史ある大腸肛門病センターがさらに発展できるように医師、看護師、事務職員 全員で協力し、より良い医療を提供できるよう努力していきたいと思います。

今回は広報委員会からの要望で、痔核の治療を中心に、連載という形でお話します。今はインターネットで多くの情報が得られるので、外来診療でよく聞かれる質問も含め、もう少し踏み込んだところまでお伝えできればと思います。

Q1 痔って？

痔とは肛門や肛門周辺に生じる病気の総称です。俗称で言えば、いぼ痔、切れ痔、穴痔といったものがありますが、医学的にはそれぞれ痔核、裂肛、痔瘻といいます。外来を受診される患者数は図1のごとくですが、先に述べた疾患が痔の三大疾患となります。中でも痔核は男女とも約半数を占め、痔って聞いてまず思い浮かぶのは痔核ではないでしょうか。



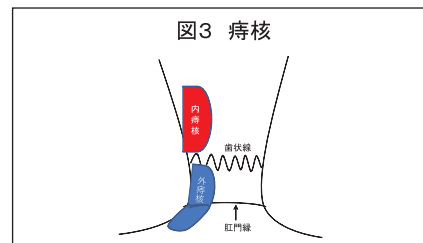
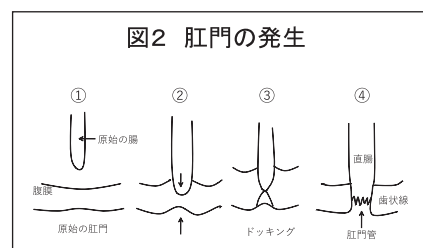
Q2 痔核って何？

肛門を閉める筋肉の内側にはパッキンの役目はたす軟らかい組織（クッション）があります。肛門は本来数 mm 開いてますが、このクッションのおかげでぴったりしまっています。痔核という

のは肛門をしめるのに役立っているクッションが排便時の強いいきみなど、何らかの負担がかかって肥大し症状をきたすようになったものです。年をとれば誰でも少しはあつたりします。そのため自分では何の症状がなくても、健診で痔核を指摘されることがあります。

Q3 痔核の種類は？

肛門は最初からできているわけではありません。妊娠2か月頃に腸が肛門のほうに下がるとともに、肛門になる皮膚がくぼみ、ドッキングして形成されます。(図2) このドッキングした部位は歯のような形に見えることから歯状線（しじょうせん）といいます。この歯状線より奥、直腸側にできた痔核を内痔核と呼び、皮膚側にできたものを外痔核と呼びます。(図3) 腸にできたポリープを内視鏡で取っても痛くないように、歯状線より奥の腸は痛みを感じませんが、歯状線より皮膚側は皮膚と同じ神経が通っているため痛みを感じます。時々、痔から出血するけど何も痛くないと話される患者さんがいますが、内痔核から出血しても痛くないのはこのためです。



次号へ続く...